

【神に祝福され、御国を受け継ぐ者】

説教者: 鄭南哲牧師

本日聖書箇所: マタイの福音書25章31節-40節・暗唱聖句: マタイの福音書7章21節

愛するCPC信仰の家族みなさん、お盆休みはいかがお過ごしでしたか。2006年から約14年2か月間共にCPCの信仰の家族とし歩み、一代目執事であって、20年6月21日に沖縄の方に移住され4年間過ごしていた秦野美代子執事が先週8月8日(木・午後2時35分・享年83才)、浦添総合病院で脳梗塞により召天されました。7月10日に急に心筋梗塞を起こし、10時間の心臓血管バイパス大手術を受けても、約1カ月間順調に歩くほど回復され、リハビリを続けていましたが、次は急な左脳梗塞や血栓が発病し、手術することも出来ず召されました。今回、鄭師が葬儀礼拝の説教の為、夫婦で参列し、久冨姉と川副執事のお母様も奈良から、以前我らの教会メンバーだったベトナムのチン兄も茨城から、また以前駐在員の時、我らの教会で数年間集っていた金ダルファン・申ジョンファン兄も韓国から参列して下さり感謝でした。一緒に参列出来なかった教会家族からのお花代も多く預かり、代わりにお渡すことも出来ました。4年経ても、我らの教会家族にとって、故秦野美代子執事はお母さんのような、信仰の友のような、家族のような愛の存在でした。私もずっと寂しい思いと涙が止まりません。しかし、今や神様がおられる御国で安息され、ずっと待ち望んでいたご主人とも再会し、笑顔で喜んで主を賛美しておられると信じます。我らもこの地上での信仰の道のりを走り終え、天国で喜んで再会する時を待ち望んで行きましょう！

<1. 本文の内容>

本日、私たちが探ってみたいこの‘羊と山羊のたとえ話’は再び来られる主、主の御前に立たされる日を迎え、神の御国にしっかりと入るように正しく備えるためのマタイの福音書25章の三つ目の最後の御教えであります。

このたとえ話のテーマは“完全なる神の御国に入れる者は最も小さい者たちの一人のために仕える者である”と教えて下さっています。まず、今日のたとえ話の目立つ特徴はイエスキリストの再臨の時の状況が記されていることです。

マタイの福音書25章31節をどなたが読んでいただけますでしょうか。「人の子は、その栄光を帯(お)びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、(人の子は)その栄光の座(位)に着きます。(31節)」

今日この‘羊と山羊のたとえ話’は始まりが人の子、つまりイエスキリストが再び来られる時、栄光を帯(お)びて、すべての御使いたちを伴って来られる御姿から始まります。ここで“栄光の座(位)(くらい、thronos)”というのは王座であり、すべての統べおさめる王であられるイエスキリストが王権を行使されるために王座に着くという意味です。イエスキリストが再び来られ、この世を裁かれる時、その対象において例外になる人はだれもいません。32節に「そして、すべての国の人々が、その御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊とやぎからより分けるように彼らをより分け」ここで「すべての国の人々」、「神の御前に集められる」、つまり、すべての人々は例外なく必ず御前に立たされる時が待っているというが分かります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！イエス様がいつ、再び来られるかはだれも知りません。

ですから、この世の終りの時はだれも知りません。(地上での人生の最後はだれも分かりません)ただ父なる神のみがご存知でしょう。しかし、確かな事実は一度来られ、天に上られたイエス様は聖書のご自身の約束された通りに、必ず再び来られる、そしてその時がこの世の終りであることを教えて下さっています。そして、神様の裁きはかならず行われます。一人も残らず、神の御前に立たされるでしょう。

今日の本文に戻りまして、この世を裁くために栄光の中、イエス様が再臨される時、主はすべての国々の民を集め、まるで羊飼いが羊と山羊を分けるように彼らをより分けるとおっしゃっています。羊飼いが檻(おり)に入れる時、表では似てる羊と山羊とをちゃんと分けて入れるように、裁きの時にも永遠の命を持って入れる天国に入れる者と永遠の死である地獄に入れる者を見分けられると書かれています。

イエス様がどうして羊と山羊を例えたのか。今日我々は疑問に思われるかも知れませんが、当時農耕(のうこう)と牧畜(ぼくちく)の社会で生活していたイスラエルの人々にはとっつても分かりやすいたとえだったのではないでしょうか。そして、これと似た内容が旧約聖書エゼキエル書34章17-22節にも出ていますので、イエス様のお話を聞いていた人々は羊と山羊(やぎ)を分けておりに入れるように、永遠の神の国にも入れる者と永遠の地獄に入る者を分ける内容である事をよく理解したと思います。それでは、まず、右側には羊を、左側には山羊を分けられたようにはたしてどんな神の基準で、イエスキリストの再臨の時には見分けられるのかを知る事がとても重要で大切ではないでしょうか。

<2. 右側の神の御国に入れるかどうかその神の基準>

みなさん、今日の本文を通して神はどんな基準で見分けて下さると思われませんか。それを一生覚える事により、我々はこれからの生活と残りの人生をどのように送れば良いのか改めて決心する事が主の御前でできると信じます。

まず、神の御国に入れる右の羊側に立っていた人々の神の基準は何でしたか。

本文34～36節をご覧ください。

「34それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。35あなたがたはわたしが空腹であったときに食べる物を与え、36あなたがたはわたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』」

このような主のお言葉に対して右側にいる人たちは“私たちがいつそんなことをしたのですか。”と尋ねます。すると、主からは40節で「すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』」とおっしゃいました。

愛するみなさん、ここで‘最も小さい者たち’はだれを言うのでしょうか。彼らは飢えている者、のどが渴いた者、自分の住まいがない旅人、病気にかかった人、そして罪を犯し、牢に入れられた者などだと言えるでしょう。これをまとめて見ると、このような人々たちはみんなだれかの愛の助けと支えが必要としている全ての人たちである事が分かります。

*「最も小さい者たち」:(one of the least of these brothers of mine):今だれかの愛の助けと支えが必要としている全ての人たち①自分も主の愛と恵みを頂いた最も小さな者の一人でした！

②最も小さい者だった自分もだれかの愛の助けと支えを通して！

③今も自分の周りに愛の助けと支えが必要な小さな者たちが多くいます。

こういうわけで古代教会(2世紀～7世紀)の教父と呼ばれた有名な神学者たちであったタティアノスとクレメンスという方はこの御言葉に対して“あなたがたの助けを必要としている兄弟姉妹を見る時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ！”と主張していた理解と解釈はとても同意し、正しいと思います。

ですから、イエス様と同一されているこの‘もっとも小さい者たち’というのはクリスチャンを含めあらゆる貧しい者、弱い者、疎外されて誰かの愛の仕えと助けが必要な状態にいる人たちであることが分かります。

主の右側に立たされた人々はそのような人々のために、惜しまずに愛を分け与え、助けてあげたクリスチャンとしてまるで、当たり前だったかのようないつもの神の前でそのような生き方を持っていた人々であることが分かります。

いつも自分の利益などより、計算せず惜しみなく、愛の助けが必要である人々なら、だれにでも(たった一度とかたまにやっただけの感心などではありません)犠牲を払って愛をもって仕えて来た人生と生き方を送って来たので、キリストの裁きの時に却って主にほめられながら、神様が共におられる神の御国に入れられたことが分かります！

ところが、山羊の左側の永遠の死である地獄に入れる者たちはどうでしたか。41節では、「のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。」とイエスキリストから厳しく語りながら、その理由について42-43節はこう書かれています。

「42おまえたちは、わたしが空腹であったとき食べる物をくれず、43あなたがたは旅人であったときにも宿を貸さず、裸であったときに服を着せず、病気のときや牢にいたときにも訪ねてくれなかった。』」

その時、地獄に入ることに主から定められた者たちが44節に主に訴えます。「すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いたり、旅人であったり、裸であったり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』*「世話をする」と言う意味:ギリシャ語「ディアコネオ」、その意味:奉仕する、仕える(=愛の分かち合い&分け与える)意味であります。この意味として見ると、彼らが地獄に落ちてしまった理由は助けが必要な人々に助けられなかった、仕えられなかったから(愛の実践と仕え)であることが分かります。

<3. イエスキリストを救い主として信じ救われた人として変わって、伴う生き方と行い>

今日の聖書の本文の内容では、これが主イエスキリストの再臨の時、人々を裁かれる御教えの内容です。

もっとも小さい者に仕える、奉仕する姿勢と愛の行いと助け、主の御名によって仕える愛の行為が大切であることを示されています。なぜなら、今日の本文はまるで、この世でもっとも小さい者に仕える事が神の永遠の御国に入れるか、それとも地獄に落ちて永遠の罰を受けるかが決められるように教えて下さっているからです。

ところが、みなさん、こうなると、どこがおかしいと思われませんか。

今日の御言葉は今まで聖書がずっと協調し、教え続けて来ている内容、つまり、人の努力や行いではなく、信仰により永遠の命を得、救われる(ヨハネ3:16-18)のを教えて下さっているのにも関わらず、ここでは、まるで全然違う内容つまり、この世で人の奉仕の生活によって天国行きが決まるかのように教えて下さっているようにそう見えませんか。

私たちは今まで人間の努力や行為自体はそれが努力であれ、条件であれ、神の御国である天国に入れる条件にはなれないと教わったのではないのでしょうか。今日の御言葉は単なる人の善行、良い行いによる天国に入れる条件だと教えている事ではない事を注意しなければなりません。

みなさん、よくご存知のエペソ人への手紙2:8-9節を何方が読んで頂けますでしょうか。

「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」

この御言葉のように、人間の行いその自体では救われ、天国に入れることには決してなりません。

そしたら、みなさん、今日の本文をどう理解し、核心的な内容はいったい何でしょうか。

今日のイエスキリストが語り教えられた、今日のたとえ話は天国に入れるための条件としての愛の仕えと助け、愛を分かち合う奉仕の行いではありません！神の御国に入れる真の信仰を持っている人々について来る行いの結果！真の信仰を持って信じている人々が結ばれて来る生き方、その信仰の実と結果として理解すべきであります。

イエス様はこの点についてすでにマタイの福音書7章17-21節で言われました。

「17良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。18 良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることになるのです。21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者が入るのです。」

そして、新約聖書*ヤコブ人への手紙2章14-17節

「14私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも欠いているようなときに、16あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。17同じように、信仰も行ないが伴わないなら、それだけでは死んだものです。」

ジョン・カルベンという偉大な神学者は彼が書いた「キリスト教綱要(こうよう)」にて次のように適切な理解をさせてくれています。「キリストはすべての人々に自分たちの行為に従って報いて下さる。なぜなら、各人は自分の行為によって自分がまことの信者であるか、未信者であるかを証明されるからだ。」

ですから、今日の本文を通して得られる事実と言え、主イエスキリストによって永遠の命を得、神の御国、天国に入れるのは、唯一の自分の救い主としてイエスキリストを信じるのみで可能ですが、その信じる信仰が確かな信仰であるか、形だけの信仰、いつわりの信仰であるかはその信仰にふさわしく行いをも伴って来るのかによって、確かめられるということであります。

<4. どうしてそのような愛の生き方が出来るでしょうか。>

①惜しまずに与えてくださる三位一体の神様を愛し、信じ、従っているからです。

神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださり、日々、私たちに良いもので食べさせ、着せてくださり、養ってくださる我々の父なる神であります。そして、聖霊の神様も我々のためにたえず、とりなしをされ、導いてくださり、神の御言葉を御心のように悟らせてくださり、それぞれに相応しく神の賜物を与えてくださるお方であります。

「(コリント人への手紙第二9章8節)神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。」

「(コリント人への手紙第一12章11節)同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。」

特に、御子イエスキリストは我々を愛し救う為に神の御座を捨てて、ご自身の与える為に一番弱い人間の姿を取り、この地に来られたのです。そして、私たちのために愛の残るところなく与え、惜しまずにご自身のいのちまで十字架の上で与えて下さったゆえに、我々の罪は赦され、救い出される道が開かれました。

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ここで、「与える(ディドミ)」という言葉は、さきほど読んで「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。この世に来られた救い主なる神の御子イエス様の生涯自体を一言でまとめると、与える人生でした。

その為イエスキリストは「このように労苦して、弱者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを、覚えているべきだということ、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」(使徒の働き20:35)と言われました。地上では野宿者であり、無所有で、ご自身が持っている物はすべて弟子たちと多くの人々たちのために愛の残るところなく、惜しまずに与えて下さったお方であることが分かります。

今日の御言葉は愛の具体的な行いについて語っています。人類歴史上一番与える生涯を送った方はまさにイエスキリストでした！イエス様を信じているクリスチャンなら、自分中心から他人中心に考えが変わらなければなりません。

「むしろ、あなたがたを召(め)された聖なる方に倣(なら)い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。

「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。(ペテロの手紙第一1章15-16節)」この箇所を教えて下さっている事はイエスキリストが聖であるように、私たちも聖でなければならないということ！

つまり、クリスチャン生活とは、聖くなることであることだと教えて下さっています。(ここで「聖(Holy)」と意味は区別される)しかし、イエス様の当時律法主義者だったパリサイ人たちは、自分たちでルールを決めて、ルールを守らない人をさばきました。

ついに彼らはイエス様までも非難攻撃してしまいました。しかし、この世に来られたイエス様は、1人1人の魂に対して配慮をされ、愛されました。イエスキリストが行いを通して見せて下さった本当のきよさは、魂に対する配慮でした。愛でした。愛こそ聖さであると言えます。聖さを別の言葉で言い換えるならば、「愛」に近いことばだと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちは、規則、ルールを守ることをきよさと思っ
ていませんか。礼拝出席、祈祷会出席、献金、聖書読み、祈ることなど、もし、それを行っている事が聖さと思っ
ていれば自己満足したり優越感を抱いてしまったり、できていない人にはパリサイ人のようにさばくようになっ
ていませんか。しかし、みなさん！本当の聖さというのはパリサイ人のように律法的になるのではなく、主イエスのように自由になること
です！間違った聖さは、他人が私をどう見ているのかを気にすることであり、真の聖さは、イエス様のように他人が必要としているのは何かに関心を具体的に持つことである。つまり、真の聖さとは愛である事を決して忘れてはいけません！

このように三位一体の神様は信じ、従う者たちにたえず与えてくださるお方であることが分かります。その与えて下さる神の愛は世々に至ります。御子イエスキリストは、この世に来られたのは、我々を愛され、ご自身を与えるためであると聖書は教えて下さっています。神を愛し、イエスキリストを受け入れ、信じて従う人たちは当然イエスキリストが自分になされたように、その似姿に益々変わっていく者たちになると信じます。だから、そのような人たちをクリスチャン、キリスト者だというのはないでしょうか。キリストに従う人生はイエス様のように自分も与える人生を送ろうとします。

イエスキリストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとし天国を所有した者たちは、神がすべてを惜しまずに自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい！与える者になりなさいと命じられているのです。それは律法や義務より、自然なライフスタイルであり、自発的な愛の生き方を望んでおられます。なぜでしょうか。我々が信じている神は我々を愛する為に、罪を赦す為に、救うために、惜しまずにひたすらお与えて下さる三位一体の神様だからです！

②我々にあるすべてのものが神様から預かっている神のものでことを実際信じているからです。

愛する信仰の家族のみなさん！この世では自分の物を分け与えたら自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと言います。しかし聖書は真逆に、与えなさい！与えればさらに豊かにされるとイエスキリストは約束して下さっています。なぜでしょうか。我々は知っているからです。私たちが持っているすべては自分の物ではなく、すべて主から一時的に各自に預けられているものであって自分の所有物ではないことを(マタイ25章14～30)知り、信じているために、主が喜ばれるところに、主が望んでおられる通りに分け与える事ができます。

「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記1章21節)」

特に、マタイの福音書25章でイエス様のタラントのたとえ話と羊とやぎのたとえ話を通して、人に与えられているすべては神様からしばらくこの地上での一度許された人生に預かっている神のものであることを教えて下さっています。

人の一度の人生も、命も、預けられている時間や家族、物質でさえもただ全てが主からそれぞれ能力に応じて主からしばらくの間、各自神から預かっているものであって、神が我々の魂を呼んで下さって一度のこの人生を終えると、主の御前に立たされる時が来たら、主が各人生に預けて下さった物を主のためにどのように用いたのか清算する時が必ず待っている事を聖書は明確に教えて下さっています。

聖書はこう語っています。マルコの福音書9章41節に、「まことに、あなたがたに言います。あなたがたがキリストに属する者だということで、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。」

愛の親切！(温かい励ましの言葉、慰めや感謝の言葉と姿勢、笑顔と温かい微笑み、傾聴して上げる事、心からその人のために祈ってあげる事、だれかの必要さや困っている事に思い遣り、心遣いを持った配慮と仕えなど)はかならず物質やお金がかからなくても、年齢関係なくだれでも出来ることであり、与えることが出来るでしょう。

我らのために、すべてを与えるために来られたイエスキリストは、今日我らに、「与えなさい！」と命じておられ、願っておられます。「さらに主から頂くことを望む者は、まず人に与える者になりなさい。」という意味も含まれています。

<5. その証し人:最も小さな一人に惜しまず愛を分け与え、注い出し切った秦野美代子執事>

2006年4月2日 春日井福音キリスト教会(日本福音キリスト教会連合)から転会し、入会

2014年4月6日 クリスチャンプレイズチャーチ1代執事として任職

2020年6月21日まで クリスチャンプレイズチャーチで在籍中沖縄に移住

日本同盟基督教団那覇めぐみ教会での信仰生活を継続

<秦野美代子執事について那覇めぐみ教会に書き送った薦書の内容は下記の通りです。>

教会の初代執事として、いつも教会の中で必要なところがあれば、何でも喜んで協力し、仕えて下さった本教会にて欠かせない存在の方でした。早天祈り会や水曜祈り会などいつも共に祈る場にも熱心に参加されました。そして、教会の子どもや若者、家族単位関係なく全世代の教会の兄弟姉妹と交わることをいつも喜んで下さって、教会家族みんなから愛され尊敬される方でした。それ以外にも、毎週主日礼拝の参加者の為、送り迎えの送迎担当や宣教チームの迎え、お持て成しの奉仕など惜しみなく、必要なところで献身的に仕えて下さった模範的な教会員のお一人です。約14年2ヵ月間本教会で真のイエスキリストの弟子として、主の手足となって仕え続けて下さった秦野美代子執事の献身的な愛と尊いご奉仕に牧師はじめ、役員会共に心から尊敬と感謝を申し上げます。どうぞ那覇めぐみ教会の敬愛する林明信先生はじめ、役員、教会の皆様、秦野美代子執事をこれからもどうぞ宜しくお願い致します。我らも三位一体神様のように、イエスキリストのように、故秦野美代子執事をも忘れず、見習って許された日々、人々に愛の者として仕え続け、分け与え続けて、この地上での時を終え、神の御元に立たされた時に、神に祝福され、御国を受け継ぐ者として認められ、主の御国にともに入る全cpc信仰の家族となりますように心から祝福し、祈ります。アーメン！